



# 海外生活 レポート 53

加藤 秀男さん

JICAシニア海外協力隊として、モンゴル国・ウランバートルに赴任。  
任期：2023年4月～2025年4月（予定）



ウランバートル市から約40km南のゾーンモド市近郊、草原での乗馬のひと時。  
服はモンゴル民族衣装のデールです。デールは乗馬に最適な実用機能な服です。

## はじめに

栃木県出身で川崎市在住の加藤秀男です。定年退職後に協力隊に応募しました。私の最初の活動はアフリカのザンビアで、今回のモンゴルが二度目になります。私は元会社員で特殊な技術は持っておらず、協力隊での職種は経営管理（ザンビア）とマーケティング（モンゴル）です。この職種であれば、会社員OBの方は応募可能<sup>(注)</sup>だと思います。今後、多くの日本企業OBの方が、その技術・知識を途上国に伝えるべく、協力隊に参加されることを期待しています。

(注) 英語は英検3級、TOEIC®330点以上。他の言語でも日常会話程度で応募可能。



雨上がりの通勤路。こういう道路もまだあります。



モンゴルの大草原の幻想的な夕暮れ。周囲は草原以外、何もありません。

## モンゴルの人々

モンゴル人は、13世紀にユーラシア大陸を制覇した、モンゴル帝国の末裔です。彼らは、小さい時から馬に乗る生活をしており、体幹の力がとても強く、大相撲でモンゴル力士が強いのはそのためかとも思います。私の現時点でのモンゴル人の印象は力が強く朴訥、即ち「気は優しくて力持ち」です。

先日、郊外で乗馬をしました。見渡す限りの草原に放牧された山羊・羊・牛・馬。馬の背に揺られながら、モンゴルで馬は日々の生活に欠かせないパートナーだと身をもって感じた一日でした。

## モンゴルでの活動

私の配属先はモンゴル商工会議所で、同所の目的はモンゴル国および企業の経済活性化です。そして、私のミッションは対日輸出支援です。国土は広いが人口が少なく、地下資源は多いが製造業が少ないモンゴルが、今後、目指すべき方向はどこか（資源、製造、農業、貿易、観光…?）を考えつつ、2年間活動するつもりです。



私の職場「モンゴル商工会議所」

現時点の最大の課題は、言語です。JICA二本松訓練所での特訓は大変役に立ちましたが、絶対的な語彙不足と難しい発音のため、話が聞き取れません。前回のザンビアでの反省から、現場での活動には、現地語が必要と認識しておりますので、引き続き努力していきたいと思っています。

# 世界を制覇した モンゴル帝国の末裔は 「気は優しくて力持ち」

## モンゴルについて

任地はモンゴルの首都ウランバートルです。モンゴルは中国とロシアに挟まれた内陸国で面積は日本の4倍ですが人口は340万人。そのうち首都に160万人が集中しています。ウランバートルの第一印象は日本の地方都市という感じでした。

モンゴルは銅・石炭など豊富な地下資源を有し、そのため、鉱業がGDPの約25%、輸出総額の8割強もあり、鉱業に大きく依存しています。一方、モンゴルの教育レベルは大変高く、大学進学率は日本を上回ります。また、親日的で日本への留学も多く、日本語を話せる人もたくさんいます。そんな一見途上国らしからぬモンゴルですが、未だ4人に1人が貧困の状態にあります。



山の上から見た白いテント。これはモンゴルの伝統的な住居「ゲル」です。乗馬の際に宿泊した「ゲル」には、5名分のベッドと真ん中にストーブがあり、意外に暖かく快適でした。

## INFORMATION



モンゴル国

面積 1,564,100km<sup>2</sup>  
人口 340万9,939人  
首都 ウランバートル  
言語 モンゴル語、カザフ語